

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

##### 《理工農系》

##### ●北海道大学情報科学研究科

##### 「多角的な資質伸長を促す学びの場の創成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

I T分野の大規模実システム開発プロジェクトを支える統括エンジニアとなりうる人材の育成を目的としプロジェクトマネジメント科目による産業界を意識した実務教育では、全ての科目を e-learning で提供できるようにした。他の研究科の基礎科目の e-learning 化も併せて進めた。これらの双峰型教育を遠隔地からも利用可能としたものであるが、学内の学生にとっても予習・復習に利用可能であるため、学習支援用として、効果的である。これらの科目は、関東・関西圏などを中心に産業界で活躍している社会人博士後期課程学生にとっての科目の履修を支援する仕組みとしても、大いに役立っている。加えて、e-learning 科目の英語化も一部ではあるが進め、国際性の涵養と外国からの留学生への対応を進めた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

特に大きな問題ではないが、e-learning 化の開始の初期にあっては、各教員の講義が録画されて頒布されることへの抵抗と、e-learning 講義作成の煩雑さがあり、これらを障壁と感じている教員が多かった。これらに関しては、e-learning に理解のある教員に、個別対応でお願いをして実施例を作り、参加しやすい形態とすることで、参加教員を急増させることができた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

現状では、大きな問題なく、e-learning 化が進んでいる。半数以上の科目を e-learning 化するところまで来ており、e-learning 化されていない講義のほうが少数派となっている。E-learning システムは、社会人入学の博士後期課程の学生にも好評である。加えて、授業担当教員の指導で、対面講義を受講している学生に対しても、予習・復習（復習の場合が多いようであるが）に利用している例も見受けられるようになって来ており、その補助教材としての意義を高めつつある。